

## はじめに

ここに、富山県総合教育センター「研究紀要」第44号を発行できますことを心より感謝申し上げます。

当センターでは、調査研究をはじめ、教職員研修、教育相談、生徒実習など、多岐にわたる事業を展開しております。特に調査研究事業においては、学校現場が直面する諸課題の解決に向け、研究協力校とともに「理論と実践の往還」を通じた実効性のある研究を行っています。その成果を調査研究発表会やこの研究紀要などを通して広く発信するとともに、教職員研修に取り入れて、県内各校の教育活動の支援や教員の資質向上に生かしています。

さて、現在は社会が加速度的に変化し、教育課題が複雑化・多様化する変革の時代にあります。学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」の実現に加え、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実、更にはDX化やICT教育の推進等が求められ、学校教育が果たすべき役割はますます重要となっています。また教師自身が教職生涯を通じて学び続けることにより、多様な専門性を有する質の高い教職員集団を形成することが必要であると言われています。

本県においても「課題解決型の教育」の展開や「チーム富山教育」の実現に向けた横断的な取組みが進められており、当センターの調査研究も、こうした方向性をしっかりと見据えて取り組んでまいりました。また富山大学の教育学部及び教職大学院との連携を通して、大学の先生方からの指導・助言をいただくとともに、教職大学院の学生の皆さんの協力も得ながら調査研究を進めてきました。その意味においても、本事業は、富山県教育の特色や独自の課題に基づいた貴重な研究であると考えています。

2月には、県内外から多くの教育関係者のご参加を得てオンラインによる研究発表会を開催することができました。今回紹介する3つの調査研究は、令和6年度より2年計画で進めてきた研究の集大成となります。昨年度の実態把握と手立ての構築を踏まえ、今年度は実際の教育現場での実践を通じた検証と、そこから導き出された具体的な成果をまとめており、いずれも担当者が研究に真摯に向き合った跡が感じられ、読み応えのあるものとなっています。

当センターで行う調査研究は、学校、児童生徒、先生方、保護者等にとって役立つものでなければならぬと考えています。この研究紀要が先生方の新たな気付きや児童生徒の豊かな学びと成長につながれば幸いです。

なお、巻末にあるとおり、当センターにはこれまでの様々な調査研究の成果が蓄積されており、また多くの課題解決の実績もありますので、各学校で悩みや困りごとなどがありましたら、ぜひご相談いただければと思っています。

結びに、研究を進めるにあたり、懇切丁寧なご指導・ご助言を賜りました富山大学並びに東西教育事務所の皆様、実践研究に多大なるご協力をいただきました研究協力校、研究協力員、富山大学の院生の皆様に、心より感謝申し上げます。

令和8年3月

富山県総合教育センター  
所長 辻本 努